



第4回観光政策フォーラム 開催報告

2019年2月22日(金)
第一ホテル東京





2月22日（金）、第一ホテル東京に於いて、これまでのとりくみを社会に幅広く発信するとともに、サービス・ツーリズム産業の健全な発展に貢献することを目的に「第4回観光政策フォーラム」を開催しました。今回のフォーラムでは国会議員・行政官庁・企業・教育関係・業界団体・労働組合などから約150名の参加者が集い、盛況となりました。冒頭、主催者を代表してサービス連合後藤会長からの挨拶の後、来賓としてお招きした枝野幸男 立憲民主党代表、大塚耕平 国民民主党代表代行、田端浩 観光庁長官よりそれぞれご挨拶を頂きました。

フォーラムの構成は「基調講演」、「トークセッション」の2部制とし、第一部では外交評論家 元内閣総理大臣補佐官の岡本行夫氏をお招きし、「激動の国際社会と日本 ～観光立国としていま求められること～」と題して基調講演を行いました。岡本氏からは国際情勢の行く末や予測など、今後の観光産業を取り巻く情勢についてお話しいただくと共に、日本の観光産業に求められているもの等、示唆に富んだお話をいただきました。

第二部では一橋大学大学院経営管理研究科教授 山内弘隆氏、東洋大学 国際観光学部教授 矢ヶ崎紀子氏、観光庁審議官 金井 昭彦氏の3名をパネリストにお招きし、「これからの10年を展望して ～2030年サービス・ツーリズム産業を考える」をテーマにトークセッションを行いました。サービス連合の政策・提言策定にむけたとりくみを紹介し、パネリストの皆さんからはインバウンド、人財育成や休日・休暇制度などのテーマについて観光産業が発展していくため何が必要とされているか、ご意見を頂戴しました。

サービス連合は、観光立国の実現と21世紀にふさわしい観光産業の発展を目指し、「観光立国実現に向けた提言」を組織外に幅広く発信するとともに、観光政策の実現にむけた取り組みをこれからも強化していきます。

